

稲作生産情報第4号（要約）

令和8年6月25日
青森県「農林水産力」強化本部

- 天候や生育に応じたきめ細かな水管理で茎数確保に努めよう！
- 有効茎数を確保したほ場では中干しを実施しよう！
- カメムシ被害を防ぐため、地域ぐるみの草刈りをしっかり行おう！

〈生育状況〉

6月20日現在の生育は、草丈は平年よりかなり短く、㎡当たり茎数はかなり少なく、葉数は平年並みである。

〈水管理〉

- 1 温暖な日は3cm程度の浅水にして水温と地温の上昇を図り、気温の低い日は5～6cmのやや深水で保温し、茎数の早期確保に努める。
- 2 「日中止水、夜間かんがい（夕方又は早朝に入水）」の基本を守り、できるだけ水温の上昇を図る。
- 3 水田の土壌還元による「わき（ガス）」が発生し、生育不良となっている場合は、3～5日程度の落水管理を行う。
- 4 中干しは、1株当たり20本程度の茎数を確保した水田では、天候の良い日を選んで行い、生育遅れの水田や低温が続く場合には行わない。

〈病虫害防除〉

- 1 斑点米カメムシ類の生息密度を低下させるため、7月中旬までに水田周辺の雑草地などの草刈りを地域ぐるみでしっかり行う。また、畦畔の草刈りについては、水稻の出穂7日前までに終える。
- 2 補植用の苗を畦畔や水田内に放置していると葉いもちの発生源となるので、速やかに処分する。



報道機関用提供資料	
担当課	農林水産部 農産園芸課
担当者	稲作・畑作振興グループ 総括主幹 鈴木 晃
電話番号	直通 017-734-9480 内線 5073
報道監	農林水産部 次長 相馬 宏伊 内線 4967